

平和の鐘

互いに愛し合う、 互いに受け入れ合おうということ

助任司祭 久保裕己神父



私がフィリピンで勉学中、フィリピンの北カマリネス県ナガ市のホーリーロザリー大神学校で勉強していました。哲学科神学科合わせて140名余りの神学生達と共に生活していました。その神学生達の中で外国人は私一人、たった一人の外国人として生活する事は全てにおいて私の常識を覆されるものでした。

そんな生活はストレスフルなもので、最初の3ヶ月は地獄のような日々でした。言葉は伝わらないし、食事は不味い、体調を崩しているのに神学生達は陽気で常に騒ぎ煩く静かに休ませてもらえない。水圧が低くて水道の水はチョロチョロとしか出ないので何十人もがシャワーやトイレで行列を作って待ち続ける。部屋は本棚で無理やり仕切られた3畳程度の個室でプライバシーが在るのか無いのか音も光も漏れまくり、他の神学生達にとって初めて見る日本人、たった一人の外国人だから私の一挙手一投足が珍しいのか何かと声を掛けて来る。大体みんな質問は同じで、「日本人の神学生は

何人?」「人口は?」教会の数は?」これを140人の神学生がそれぞれに聞いてくるものだからたまったものじゃない。同じ答えを繰り返すうちにこちらも段タイライラしてくる。

そんな生活に辟易していたところ、とどめを刺すような出来事がありました。色々な神学生達が私の事を「Hey、ユーキ!」って呼ぶんです。みんなが「ユーキ!」って呼ぶこと自体は構わないんですが、普通、「〇〇さん!」って名前を呼ばれたら「何か話があるのか、用事があるのか」と思って名前を呼んだ人に「どうしたの?」って答えるのが当たり前じゃないですか。遠くから呼ばれたらそこまで行って「どうしたの?」って聞くと、大抵彼らはこう答えるんです、「何かあった?どうしたの?」って。私は頭の中が「????」状態です。それが毎日続きます。毎日100回以上。そのやり取りを毎日するだけでストレスでおかしくなりそうでした。段タイライラしてきて、名前を呼ばれるたびにその神学生のところ

に行って日本語で「用が無いなら、二度と名前を呼ぶんじゃないわねえ。」と怒鳴り、その後無視するようになりました。

ある時、朝のミサが終わって司式をしてくださった神父様が「Hi、ユーキ！」って呼ばれたので、彼についていきました。司祭用の食堂の入り口まで来たとき、彼が振り返って、私にこう言ったんです。「どうした？何か用事でもあるのか？」と。私は感情を抑えながらも相当イライラして答えました。「何言ってんだ、あなたが呼んだから来たんです。用が無いなら名前を呼ばないでください！」彼は落ち着いた様子でニコッと笑顔になりこう答えました。「ああ、これはね、親しい人に対するフィリピン流の挨拶なんだよ。名前を呼ぶことで挨拶になるんだ」と言って司祭用の朝食のおかずを分けてくれました。

なるほど、私は初めて理解しました。彼らは挨拶として私の名前を呼んでいたの

す。「おはよう」の代わりに「ユーキ」、「おやすみ」の代わりに「ユーキ!」、「元気か？」の代わりに「ユーキ!」。彼らが愛情をこめて挨拶していたのに、私は毎日イライラし怒鳴ったりしていたのです。その後はイライラする事もなく、挨拶には挨拶で返せる神学校生活でした。

異なる文化って、なかなか理解できないものです。国ごとに、地域ごとに、家庭ごとに、それぞれ個人ごとに様々な文化と常識が存在します。どれだけ文化と常識が異なっても相手に対する愛情は変わりません。異文化を自分の物差しで受け止めるとき、愛情は憎しみに代わるかもしれません。様々な人が出入りする教会であればなおさら相手の愛情に精一杯の愛情を込めて返事できるようになりたいものです。愛に愛をもって応える、シンプルだけどとても難しいことかもしれません。まずは隣人を受け入れるところから始めたいものですね。



クリスマスミサ(12月24日)



新成人祝賀式・
受験生実力発揮祈願式 (1月3日)



宣教司牧評議会からの報告

クリスマスミサに音大・聖歌隊・係の方。青年・求道者の方・多くの方にお手伝いいただきました。ありがとうございました。

ライブ・歌声綺麗に配信され、多くの方に配信を見ていただきました。

準備の皆さんコロナ禍の対応に感謝!!

視聴数 第1ミサ:3,989人 第2ミサ:1,808人 ベトナム語ミサ:196人、

当日:184人

年代別では50代~80代が70%を占めていました。

1. 広島県・広島市は、広島市を対象に緊急事態宣言に準じた対策を取ることを決め、新型コロナウイルス感染拡大防止集中対策を2月7日まで延長しました。

- 幟町教会としては、当面公開を人数制限・記名・検温・手指の消毒・換気を継続しますが、今後の状況に応じて判断してまいります。
- 聖体拝領前の手指の消毒は続けます。

2. 主日ミサのラジオ音声のご案内

- 主日ミサ(日曜日9:30~)中の大聖堂内で、ラジオでマイクの音声を聞くことができるようになりました。声が聞き取りにくいと思われる方は、ラジを持参していただき、FM77.8MHzに合わせていただきますと音声流れます。
- 必ずイヤフォンを利用してお聞きくださいますようお願いいたします。どうぞご活用ください。
- ご家庭で不要な携帯ラジオをお持ちの方は教会受付までお持ちください。活用させていただきます

3. 60歳以上の方との繋がりについて

- 70歳以上の方にアンケートをさせていただ

き、多くの方から回答をいただきました。今後も、できるだけ多くの方と繋がっていきたいと思います。

- 60歳以上の方とも今後、繋がるため連絡を取りたいと思います。

4. フィリピン台風被害募金について

- 姉妹教区フィリピン台風で被害があったインファンタ教会のため12月末まで募金を行いました。約30万円が集まり、教区を通じて送金しました。

5. 寒さ対策

- 聖堂は事前(30分前)に暖房ストーブをつける。ミサ直前にエアコン点ける。(節電対策)
- 窓はミサ直前に開ける。ミサ後にエアコン消す。(節電対策)
- ストーブは2つずつ点けていく。(ブレイカー対策)
- 聖堂の窓は対角線上に前後6枚及び地下聖堂階段1枚だけ開ける
- 寒い方のために『ホッカイロ』を青年が準備し販売する。

6. 馬小屋の組立解体について

解体・撤去は昨年と同様に有志の信徒5~7名で床の取替えを含めて実施します。

7. 『香部屋係マニュアル』について

『香部屋係マニュアル』を香部屋係さんが作成してくださいました。

香部屋係お手伝いの方が増えました。これからよろしくお願ひします。

8. 感染防止対策の長期化及び感染拡大時を想定し、幹事会・宣教司牧評議会などの会議をリモートで行えるよう運用準備をしていきます。

9. 新年度に向けての準備

- 次の3点を各部会に配布(各部レターボックス) 2月20日締め切り
集計後、財務委員会で検討する。
- ①2021年度 活動費・行事費申請書
- ②2020年度活動報告 兼 2021年度活動計画書
- ③2021年度 幟町教会と教区・地区行事

予定表(各部会の行事予定)

- 2021年度 幟町教会と教区・地区行事予定表を作成する(事務室)
- 2021年度の教会へのチャレンジ新たな取り組み 『環境について考える』

10. 今後の主なスケジュールについて

- 2月17日(水)
灰の水曜日(大斎・小斎)
- 3月7日
伊藤神学生認定式(9:30ミサ中)
- 3月14日(日)
四旬節黙想会:(9:30ミサ中から午前中) 指導は白浜司教様
- 3月20日(土) 13:00
朴助祭、三宅助祭司祭叙階式
(コロナの関係で縮小実施)
- 3月28日(日)
受難の主日(枝の主日)
- 4月4日(日) 復活の主日(祭日)
- 5/23(日)
司教公式訪問⇒聖霊降臨の日・堅信式



編集後記 外出制限で行動範囲が狭まり、人と接することも少なくなると、気力が少し萎えている気がします。コロナによる熱は持ちたくないですが、気持ちの中の熱が冷めないように気を付けないといけませんね。とりあえず、皆さん健康で(ひ)

カトリック幟町教会

〒730-0016 広島市中区幟町4番42号
電話 082-221-0621
ファクス 082-221-8486
ホームページ <http://noboricho.catholic.hiroshima.jp>



ミサの時間

日曜日 7:30、9:30、14:30~(英語)
第1日曜日 15:00(ポルトガル語)
第4日曜日 11:30(ベトナム語)
月の最後の日曜日 17:00(スペイン語)
平日 7:00 金曜日 7:00、10:00
土曜日 7:00、18:00(主日)

主任司祭 荻喜代治 神父
助任司祭 久保祐己 神父
カンダ・ケジェ・シルベストレ神父

シスター 小野島照子(援助修道会)